

希学園 第405回 小6公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

| 動画タイトル | URL |
|-----------------------------------|---|
| 第405回公開テスト 小6国語 解説動画(2026年2月8日実施) | https://vimeo.com/1162803680/2a2729217a |

1

1 a

豊富

b

文脈

c

停

2 (記述題)

3 I

相手がすでに

II

同業者の間

4 A

つ

B

か

C

げ

5

ウ

6

X 視点

Y

知識

(完答)

7 I

ウ

II

イ

III

ア

8

相手のこと

9

説明

(完答)

2

1 a

復唱(復誦)

b

上気

c

余白

2 A

目

B

水

C

ろ

D

白

3 I

書くの

II

時間も

(完答)

4

イ

5

イ

6 I

部員

II

踊った

7

(記述題)

8

(記述題)

9

ウ

10

ウ

1

2

私たちが

すでに

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

2

私たちが

すでに

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

言葉で

説明されて

いる

知っている

2

7

本来の

書道

パフォーマンス

に

なら

ない

ことを

不満に

思う

気持ち

持ち

ち。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

8

書道

パフォーマンス

が成功する

か

失敗する

か

大

きく

左右

される

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

(同意可)

〔配点〕

1 1
2 1 4

その他

2 2
7 1 2
8 2

各2点×13 26点
各6点×3 18点
各4点×14 56点

① (川添愛『「わかつてもらう」ということ』より)

1 a 「豊富」はたつぷりとあること。b 「文脈」は文中の語と語、文章中の文と文の論理的なつながりぐあい。「脈」の八面目は真つ直ぐ下ろす。c 「停」はここでは「停留所」の略。右側の中央にある「わかんむり」を忘れないように気をつけよう。

2 「誰でも新しいことを学ぶときには、すでに知っている物事を手がかり」にする例として「私たちが知らない言葉を辞書で引く」ことが述べられていることや、①の直後の「もしも辞書の説明が知らない言葉だらけだったら」という表現から、①には「知っている言葉で説明されている」というような内容がはいることになる。

3 I 「本文中のここより前から」という条件をきちんと読もう。本文四行目の「私たちが知らない言葉を」から――線②の直前までが具体例なので、この場合は文章の冒頭のところを指していることになる。

II 「本文中のここよりあとから」という条件をきちんと読もう。このあとを読み進めていくと「同業者とかかわる時間が長くなればなるほど」という、◎の「専門家どうして話す機会が多くなればなるほど」と似た内容の一文があり、その一文に「非専門家に対して説明するときの難しさ」が述べられている。

4 Aの「まつわる」は深く関連するという意味。Bの「かつて」は以前という意味。Cの「くげ」は「いかにもくそう」という意味をそえる接尾語である。

5 ③を含む一文から、③には私の考える「専門家の世界」をたとえた表現がはいること、また、直後の一文から「行くのはたいへん」だが「いったんたどり着けば楽に過ごせる」ところが答えになることがわかる。

6 まずは「X・Y」を含む段落の次の段落から」という条件をきちんと読もう。「他人のX」に立つ、また他人のYを考慮に入れる」ことについて「道案内」が有効だと述べられており、次の段落の最後の一文に「自分にとってはわかりきった道順や手順を、まったく知識のない人に説明するのは、他人の視点や知識を想像する上で良い練習になります」とある。

7 このような問いでは、前の空らんから順番に記号を入れていくのではなく、「この記号の次は(前は)、この記号になる」というようにペアを作って考える。Aが「また、小さい子どもに説明することを考えると」といった言葉を言い換える必要も出てきます」であることから、Aの内容と並列の関係になるものがAより前にくることがわかる。ウ「説明の相手として『日本語の文字が読めない人』や『日本の街並みを見慣れない人』を想定してみる」↓イ「そうすると」といった言葉を使えなくなるのでく別の方法を考えなくてはなりません」の順がアとうまく対応することになる。

8 線④を含む段落から「説明の目的を明確にする」ことの重要さについて述べられているので、ここよりあとからさがそう。「たとえば、専門的な内容をく」「たとえば、体調を崩してく」「会社で企画のプレゼンをく」というように具体例が並んでいるあとに「重要なのは」という一文がある。

9 「この文章における話題」とあることから、「文章全体を通して何についての話をしているか」ということを答える必要がある。文章が「そもそも『説明』とは何かについて考えてみましょう」からはじまっていること、「説明の目的を明確にする」というのも重要です」という一文からもわかる。

② (佐藤いつ子『わたしのb e 書きたび、生まれる』より)

1 a 「復唱」は、繰り返して唱えること。b 「上気」はのぼせて顔がほてること。ここでは照れて顔が赤くなったとイメージできる。c 「余白」は文字や絵などが書かれている紙面の、白く残っている部分。「余」の内側の部分が「示」にならないようにしよう。

2 Aの「目が点になる」は呆然とする様子。Bの「水を差す」はうまくいっているのに邪魔して不調にすること。Cの「おろそか」は、しなければいけないことを放っておくこと。Dの「白紙」は書くべきことが何も書かれていない真っ白な状態の紙。

3 線①の表現から、時間を忘れて無我夢中で書いていたことがイメージできるので、そういったことが書かれているところをさがす。榛名先生から「書道って紙と筆に夢中になることなのよ!」と言われた直後に「確かに、今日は時間も忘れて、一心に書きまくっていた」という一文がある。その直後にその書きまくっている様子を「まるでくようだった」と比喻を用いて表現している。

4 まず②の直後の「半紙の山を体で覆いたい」という表現から、マイナスの心情であることがわかる。次に、みんなの練習の様子を見つつ榛名先生が文香のところに来る前に佑京の書に対して「かな文字に挑戦し始めたのね」と話しかけていることから、挑戦したいものに挑戦することを認めてくれる先生であることがわかるので、「叱られそう」「どう言いわけしよう」というのは合わない。

5 線③の直前の文香の発言から、行書のことを榛名先生に教えてもらおうという前向きな気持ちを読み取れる。その気持ちになったのは、時間も忘れて書きまくるほど、行書を書くことに熱中できたからである。

6 線④の直後にある「人前で書くなんて緊張するし、ましてや踊ったり歌ったりするなんて……」という表現から、最大のネックは「踊ったり歌ったりする」ことだとわかる。ただ、「手放しで」という表現にも注意しなければならない。「プラスの面もあるからやりたいように思うが、マイナスの一面もあるから無条件には賛成できない」ということである。「書道パフォーマンス」をやることで「部員獲得のための絶好のアピールにもなる」ということについては文香も納得しているのである。

7 「唇を突き出す(口唇をとがらす)」という仕草から、不満な気持ちを読み取ろう。不満に思っている内容は、直前の「それじゃあ、書道パフォーマンスじゃなくね?」であり、「それ」が指しているのは「定番とは異なることをすること」である。「なぜそう思ったかという理由(事情)＋心情」の形で答えよう。

8 「肝」とは、「肝心」「肝要」という熟語からもわかるように、「もつとも大切なところ」という意味である。「どんな字を書くか」が「書道パフォーマンス」の「もつとも大切なところ」、つまり「成否のかぎをにぎるところ」ということになる。

9 「不適当なもの」を選ぶことに注意しよう。小春も文香と同様に「書道パフォーマンス」に抵抗を示していたが、蘭にステップを教えてもらったことで前向きになっていることから、「一人だけ最後まで」という部分が不適である。

10 ◎の一文の「扉がさあつと開いて」「新しい風」という表現から「今までと違う新たな世界や視界が広がった」ということ、「心に吹き込んで」という表現から「そういったことを受け入れて新たな気持ちになっている」ということがわかるので、その両方が当てはまるところに戻せばいいとわかる。